

平成28年度 自己評価表 未来高等学校

教育方針： 教育基本法及び学校教育法の精神に則り、高等学校通信制の課程(普通科・単位制)の特色を生かした教育を進め、豊かな人間性と自律・自立の力を養い、人のため、社会のために貢献する人間を育成する。

- 重点努力目標： ① 豊かな人間性の育成(サンキュレーター)の充実、長期目標設定シートの活用、基本的生活習慣の指導の徹底、充実した学校行事、人権教育および健康・安全教育の推進、家庭との密な連携)
 ② 確かな学力の育成(わかる授業の徹底と基礎学力の定着、早めのレポート完成、コースに応じた学力の育成、学力に応じ一人一人を大切に指導の徹底、授業録画ビデオによる研修)
 ③ キャリア教育の推進(正しい職業観・勤労観の育成、長期目標設定シートにより将来を設計、進学・就職指導の充実、保護者と連携した進路指導、資格取得検定合格、専門学校との連携)

領域	項目	具体的取組目標	評価	目標達成状況	次年度改善策	学校関係者評価・提言
学習指導	教科指導の充実	生徒のレベルに応じたわかりやすい授業を行う。	B	実態に応じた授業を工夫し試みているが、格差が大きく対応しきれないところもあり、個別指導などで対応している。	多様化している生徒への対応について試行錯誤を繰り返しながら、個別指導も取り入れ基礎学力の向上を図っていく。	学び直しのチャンスを与えて指導を充実させて欲しい。特進コースや他の特化したコースから長所を伸ばすのは生徒もついでよい。充実させて欲しい。
		生徒の興味・関心を高めながら各授業目標を明確にして、学習意欲の向上を図る。	B	受け身ではなく、能動的に参加する生徒の姿勢がみられたが、興味・関心が薄く集中力が続かない生徒も一部まだみられた。	時間毎の授業と毎週の目標を一層明確にして、授業に取り組み生徒の意欲の向上を図っていききたい。	集中に欠ける生徒もいる中でコミュニケーション力の育成の視点から大事なことを判断して対応する能力を身に付けさせて欲しい。
		視聴覚機器等を利用して効果的な学習指導に努める。	B	機器が十分揃ってないところもあり利用している教科とそうでない教科に分かれているところがある。	生徒の興味・関心を高める上で効果が上がる研究を積んで、積極的に利用していく必要がある。	機器を積極的に利用することで指導方法も改善していく必要がある。
		授業力アップのため、授業録画ビデオによる研究に努める。	B	録画ビデオを生かしてお互いに反省や研究に努め、次の授業に生かすこともできた。	授業風景をビデオに撮られる事はプレッシャーになるところもあるが、お互いに授業力アップのために今後も継続して行く必要がある。	授業風景をビデオに撮られる事はプレッシャーになるが、授業力アップのための研修は今後も継続していく必要がある。
	レポート指導の充実	自学自習の習慣の育成とレポート課題の自主的な取り組みの向上を図る。	A	多くの生徒は自主的な取り組みができるようになっているが、一部根気強い指導を要する生徒もいる。	自学自習の習慣が付いてない生徒について学習の仕方や提出期限を守ることを継続して根気強く指導する必要がある。	自学自習の習慣が付いてない生徒には継続して学習の仕方や提出期限を守ることを根気強く指導する必要がある。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	校則や身だしなみについて、校内のあらゆる場面で指導に当たる。	B	ヘルメット啓発による登下校の安全の指導を継続的にしている。上級生は全体的に落ち着いてきているが、下級生の一部に指導に時間がかかる生徒がいる。	今後も継続して教員一人一人が責任を持って粘り強く指導にあたること。また、時には毅然とした態度、厳しい指導も必要になる。	今後も教員一人一人の粘り強い指導と必要に応じた厳しい指導を粘り強く家庭と連携を図りながら続けて欲しい。外部機関との連携を生かした研修も充実させていく。
		社会に必要なマナーやエチケットについて継続的な指導を行う。	B	登下校時や職員室の出入り時の挨拶や玄関周辺(靴箱)の整頓等で全体的に良い習慣が身に付いてきている。	社会生活を送る上で基本になる大切なことなので、学校行事等も含めた学校生活全体で習慣化させる指導をしていきたい。	今後社会生活をする上で基本になる大切なことなので、更に学校生活全体で習慣化出来るように指導していきたい。
	問題行動の未然防止	日頃から、生徒と会話したり相談にのるなど信頼関係づくりに努める。	A	日頃から生徒の動向に気を配ったり、生徒が話しやすい環境作りに取り組んでいる。	生徒一人一人への状態に応じた早めの対処を心がける。	継続して生徒に応じた気遣いを更に高めていく必要がある。未来校の生徒は話せば応えてくれるかわいらしさが年々でてきている。
		学校生活全般について、保護者との密接な連携の取れた指導を行う。	C	気になる様子があれば、家庭と密に連絡を取るよう心がけており、また学校通信やホームページなどで学校での活動の様子を知らせている。	家庭訪問や定期的な面談等の機会を中心に家庭状況も把握しながら生徒理解に努めていきたい。	家庭訪問や定期的な面談だけでなく、それ以外の学校行事等の機会も利用して関係を深めるなど地道な生徒理解と家庭との連携をして欲しい。部活動(同好会)も出現してきており、長所伸長の中で、自己肯定感を高めることを学校から積極的に投げかけていくことから効果もでてきている。あいさつすると生徒はあいさつをしてくれるようになってきた。
進路指導	進路指導の充実	進路指導計画に従って、進路情報の提供等により3年間を見通した進路指導を行う。	B	転入生も多く、計画的な進路指導ができにくいところもあるが、将来を見据えた高校生活が送れるように指導ができていく。	一人一人の適性や長所を考慮しながら、日々の学習活動に真剣に取り組ませることにより、進路実現を図らせていきたい。	一人一人の適性や長所を考慮しながら、進路実現を図って欲しい。今後も専門学校との連携は積極的に行って欲しい。表彰制度を充実させることで、認め合い、高め合う精神を向上させるのはよい。
		高専連携によるキャリア教育を推進して職業意識の向上を図る。	B	専門学校等の先生を講師に招いての計画的出前授業の実施により職業意識の改革・向上が図られている。	今後とも継続して、関心の薄い生徒も含めて、自分の生き方や卒業後の進路について意識の向上を図っていききたい。	自分の生き方や進路について関心の薄い生徒への効果的な対応策を考えていく必要がある。キャリア教育プログラムを確立し、各自の夢実現のための努力が意欲的にできる環境をつくる。
		進路選択に当たって3者面談等で保護者との連携を図る。	B	3年生は、生徒の適性や興味と保護者の気持ちを考慮しながら進路について真剣に取り組む姿勢がみられた。	保護者と意思疎通を図りながら、自分の将来や進路について真剣に考え、高校生活に取り組めるようにする。	進路実現に向けて、一人一人の身近な目標・課題を克服することから取り組んでいくことはよい。
		コースに応じて進学・就職対策を効果的に行う。	B	学年が進むにつれ、専門分野の学力の向上や模試・検定・資格試験への意欲的な取り組みがみられた。	より多くの生徒が、能力に応じて各種模試・検定・資格試験に挑戦する気持ちになるように機会を捉えて全校生徒の前で認める場をつくる。	より多くの生徒に、各種模試・検定・資格試験を目標にして、自分の可能性を信じて努力する姿勢を身につけさせて欲しい。可能性が広がる高校で会って欲しい。
特別活動	学校行事の充実	運動会、スキー等の行事を充実させる。	A	運動が苦手な消極的な生徒もいたが、殆どの生徒は準備・後片付けも含めて協力して意欲的に活動できていた。	今後も、各自が役割を果たし全員が協力して各学校行事に取り組め、盛り上がったものになるようにする。	今後も全員が充実した取り組みができるように、個々の目標を設定して行うようにさせてほしい。
	「感謝の心」を育む	サンキュレーターによって、生徒の人間性の成長を図る。	B	学校全体が、共通理解のもと、長期目標設定シートの作成を助めているが、十分に活用できていない生徒もいる。	自分自身と真剣に向き合う良い機会なので、長期目標設定シートの作成時から有効活用できるカリキュラムを考えさせる。	自分自身を見つめ直し、長期目標設定シートの作成時から有効に活用できるカリキュラムを考えさせる。サンキュレーターの授業充実(国語科連携等)をさせることで親への感謝をより表現していけることを充実させる。